大分県信用組合「けんしん同友会」会報誌

TomoPal

トモパル

2026 SPRING Vol.54

TOP INTERVIEW

1 学校法人 文理学園
2 株式会社 豊後プロパン
3 社会福祉法人 大神福祉会
4 有限会社 寿浄化槽センター
5 有限会社 野村
6 有限会社 功徳社中
7 株式会社 河野測量設計
8 株式会社 甲斐林業
9 株式会社 一也百
10 株式会社 Laughking Company

大分県信用組合

地域も学びのフィールド。人間力をはぐくみ、未来を拓く

学長 **橋本 堅次郎**氏

2021年4月より学長に就任。㈱岩田屋勤務をはじめ
企業再建や大型商業ビル開発、人材育成と幅広いキャリアをもつ

大分東部ブロック

教育

学校法人 文理学園（日本文理大学）

［所］大分市一木1727 ［電］097-524-2700 ［休］土・日曜、祝日

多くの経験・出会いを通じ、可能性を発掘する

学校法人「文理学園」が運営し、2027年に創立60年を迎える「日本文理大学」。「産学一致」の建学の精神を掲げ、時代の変化に合わせながら、地域とつながり、産業界に貢献できる人材を育て続けている。

工学部、経営経済学部に加え、2023年には「保健医療学部」を新設。医療の専門知識だけでなく、多角的な視点で物事を捉えられる"医療産業人"の育成に力を注ぐ。医療業界における人材不足が課題となる中、チーム医療の一員となる人材を育成する学部の開設は、注目を集めている。

どの学部も地域に根差し、産学一致を特色とした教育を行う同学にとって、大きな転機となったのが2014年だ。大学を知の拠点とすることを目的とした、文部科学省の「COC事業」に採択された。

現在学長を務める橋本堅次郎氏は、「COC事業を機に、キャンパス内での学びにとどまらず、地域に飛び出し、多くの体験や人との関わりを持つことで、学生の人間力が育つことを実感した」と語る。

大分県全域を学びのフィールドとするため、当時はカリキュラムの変更や環境整備など、試行錯誤の連続だったという。「主体性を持って学んでほしい」という想いのもと、教員・職員が一丸となって取り組んだ結果、約10年に及ぶ教育改革が実を結んだ。現在では県内18市町村すべてに学生たちがゼミやプロジェクトを通じて関わり、地域の多様な産業と連携した学びを実践している。「地域の声に耳を傾けながら成長していく学生たちの姿は、とても頼もしい」と、橋本学長は目を細める。

「社会デザイン学環」開設。"化ける"人材を育てる

2026年4月には、新たに「社会デザイン学環」を開設予定。高校・大学における「文系・理系」という枠組みを超えた、「文理融合型」の教育を提案する。社会に新たな価値を見出し、変化や課題に柔軟に向き合い、行動できる人材の育成を目指す。

時間や場所にとらわれず、自分のペースで学べるスタイルも特徴の一つだ。多様な学び方を可能にする新たな教育モデルとして、注目を集めそうだ。

現在、「オーザイスマートキャンパスプロジェクト」と銘打ち、大学全体のリニューアルも進行中。新しい学びと交流が実現する共創拠点として生まれ変わるキャンパスにも、期待が高まる。

「これからも"化ける"学生を育てたい。卒業後も成長し化け続けられるよう、伴走し続けたい」と語る橋本学長。未来を担う学生たちが地域を切り拓いていく、その一歩一歩を支え続けている。

「工・経・医」3学部がワンキャンパスにそろう私立大学は全国的にも珍しく、教育関係者からも注目されている

「オーザイスマートキャンパスプロジェクト」の一環として、大学内に完成予定の「コミュニティグローブ」

1／毎年卒業後の成長も見据えた教育に力を注ぐ
2／主体的な学びを通じ、トライ&エラーを繰り返しながら意欲的に学ぶ学生たち

地域密着のフットワークで人々の暮らしを豊かに

代表取締役 **後藤 謙治**氏

「フットワークの良さと、柔軟な安全対策への体制やサービスは、地域に根差し歩んできた我々の強みです」と後藤氏

大分東部ブロック

ガス販売業

株式会社 豊後プロパン

［所］大分市三佐2-1-17　［電］097-521-3210　［休］日曜

暮らしを支えて半世紀。豊かな街づくりに貢献

大分市・別府市を中心に、約2万7,000世帯へプロパンガスを提供。太陽光発電や不動産、保険、ウォーターサーバーのレンタル、温泉施設やゴルフ場の運営など、幅広い事業を展開している。

代表取締役社長の後藤謙治氏は、学生時代を東京で過ごし、銀行や他のガス会社での勤務を経て、30歳で創設者である父が営む同社へ入社。42歳で社長に就任し、経営のバトンを受け取った。

主力のプロパンガス事業では、一般家庭や飲食店などの店舗、マンションやビルなどの大規模なガス配管工事、バルク貯蔵タンクの取り付け工事まで、すべて自社で施工・管理を行う。また創業以来貫いてきたのが、ガスを利用する顧客の安全に対する徹底した配慮と体制だ。

各家庭のガスメーターを通信で管理し、ガス漏れなどの異常が生じた際には即時に把握し、遠隔遮断が可能なシステムを導入。何か問題があれば24時間体制で駆けつける「フットワークの良さ」は、地域を知り尽くした地元企業ならではの強みである。

エネルギー業界を取り巻く環境については、「コロナ禍やウクライナ情勢以降、仕入れ価格の高止まりが続き厳しい状況だが、経営努力で信頼を維持したい」と語る。また東日本大震災以降、ガスへのニーズは再び注目されており、ガスと電気を併用する"ハイブリッド需要"も拡大傾向だ。

中でも家庭用のガス衣類乾燥機「乾太くん」は、乾燥の仕上がりの良さとスピード感から、数年前よりファミリー層を中心に根強い人気を集めている。「ガスのメリットや魅力を発揮できる商品として、今後も販売に力を注ぎたい」と意欲を見せる。

人とのつながりを大切に、次代を担う企業へ

後藤氏が社長就任以降、事業展開と併せて重きを置いてきたのが、働く環境づくりだ。社員が固定席を持たず、その日の業務内容や気分に応じて自由に席を選べる「フリーアドレス制」や、業務効率化にもつながる「ペーパーレス化」などをいち早く導入してきた。

また、完全週休二日制や産休・育休、介護休暇など、社員が長く働き続けられるための制度や環境整備にも力を注いでいる。

「ガス屋は昔から配達や集金などを通して、お客様の顔が見えるお付き合いを続けてきました。これからも昔ながらの"人と人のつながり"を第一にしながら、生活インフラであるガス事業を主軸に、時代の変化に合わせて地域の方々の暮らしに寄り添っていきたい」と後藤氏。

長年培ってきた足元の事業を守りながら、必要とされ続ける企業としての歩みは、これからも続いていく。

感震・漏洩検知・自記圧力計などを設置した供給設備により、安全第一のガス管理を行うほか、点検にも力を注ぐ

最新のバルク供給システムを導入し、バルク貯蔵タンクの取り付け工事なども完全自社施工で対応

1／令和2年に大分市三佐へ移転。社員のチーム力を大切にするため、より良い職場環境づくりにも配慮している
2／大分市神崎にある「白木ゴルフ場」は、別府湾を一望できる人気のゴルフスポット

「子どもが一番幸せ」であるために。親子の絆を育む場を地域へ

理事長 佐藤 二郎氏

「こども園、子育て支援センター、児童クラブの運営を通じて、地域や社会に役立ち続けたい」と佐藤氏

別府・日出同友会

社会福祉法人

社会福祉法人 大神福祉会（さざんかこども園）

［所］速見郡日出町大神7092-1　［電］0977-72-7373　［休］日曜、祝日

子どもたちが笑顔で過ごせる居場所であり続けたい

別府湾を望み、豊かな自然に包まれた日出町・大神地区。その小さな町の一角で、楽しそうな子どもたちの声が響き渡る「さざんかこども園」。前身である「さざんか保育園」が創設された1980年は、核家族化や女性の社会進出が著しい時代だった。

「社会の変化とともに、家族や子育てのあり方が大きく変わり始めた転換期だった。日出町でも共働き世帯が増えてきた頃で、地域の人たちの想いに応えたいと思った」。熱い想いを胸に、理事長の佐藤二郎氏は、25歳という若さで法人を設立した。

子どもたちの成長を見守り、育む役割を担う存在として、創設以来守り続けている理念は「子どもが一番幸せであること」だ。「一日の大半を家庭から離れて過ごす園児たちが、笑顔で過ごせる環境をつくることが私たちの使命」と、ブレない姿勢を貫いている。

長年の保育への想いをつないでいくなかで、佐藤氏が子どもたちと同様に大切にしているのが、職員の健やかさだ。「職員が心身ともに健康であることは、必ず子どもたちの幸せにつながる」と語り、園内研修やコミュニケーションを図る機会を多く設けるなど、ストレスの少ない環境づくりにも注力している。

地域の子どもたちと親に寄り添いながら貢献したい

約8年前に幼保連携型のこども園となった同園では、現在、0〜5歳までの子どもたち約100名が元気に過ごしている。園庭や各クラスの部屋、廊下など、園舎全体をゆとりある造りにしているのも、子どもたちにのびのびと過ごしてほしいという配慮からだ。

また、こども園に隣接する「C&Pさざんか」も運営している。もともとは児童館として利用されていたが、行政からの依頼を受け、約2年前から子育て支援センターとして始動。地域に住むマタニティママや乳幼児を育てる親子にとって、貴重なコミュニケーションの場となっている。

敷地内にはほかにも「さざんか児童クラブ」があり、共働き世帯の小学生を中心に、多くの児童が放課後を過ごす。児童の中には、こども園の卒園児も多く、佐藤氏は「幼かった園児が成長した姿を見ることができるのもうれしい」と、目を細めながら話す。

40年以上にわたり、地域の子どもと親を支えてきた佐藤氏だが、「モノや情報があふれる今の時代は、親子が向き合い、会話をする時間が極端に少ないように感じる」と危惧する。「慌ただしい毎日の中で、わずかでもよいので子どもを抱きしめてほしい」。親子がともに過ごす時間こそが、心の豊かさにつながることを、今後も伝えていきたいと語る。

園内の部屋もゆとりあるスペースとなっているので、室内でもゆったりと遊びや学びができる

地域の子育て支援センターとしての役割を担う「C&Pさざんか」

1／自然豊かな場所にあるこども園。様々な体験や行事を通じてのびやかに過ごせることを大切にしている　2／広々とした園庭で元気いっぱいに過ごす園児たち

確かな技術と安心を届け、地域の日常を支える

代表取締役 原 彩乃氏

外資系製薬会社のMRを経て家業を継承。
6歳の男の子を育てる一児の母でもある

中津・下毛同友会

サービス業

有限会社 寿浄化槽センター

［所］中津市大字永添1150-1　［電］0979-24-0755　［休］土・日曜、祝日

いつもあなたのそばに 暮らしの「当たり前」をこの先も

四季折々の景観が楽しめ、歴史的な街並みも豊か。農業や林業、漁業も盛んな中津市に根差す同社は、地域の公衆衛生と生活環境を維持するため、し尿の汲み取りを行う「中津清潔社」として1966年に誕生。創業者は2022年に代表取締役に就任した原彩乃氏にとって曽祖母にあたり、後に事業を引き継いだ祖母が1990年に浄化槽の維持管理に取り組む「寿浄化槽センター」を設立する。創業者から続く事業のバトンが、原氏へ引き継がれたのは約4年前。つまり同社は創業以来、女性が経営を担ってきた会社であり、「地域の生活を支える」という根幹にある思いは守りながらも、時代背景に合わせて事業の形を変え、今日まで歩みを続けてきた。原氏は30代という若さで経営を担うことに迷いはなかったのか。

「高齢になった祖母から何度も〝戻ってきてほしい〟と言われていました。しかし当時は東京で働いており、妊娠中でもあったため、すぐに決断することはできませんでした。そんな中、いよいよ祖母の体調も悪くなり、悩みましたが今この場所にいます」。心を決めた理由は、家族が築き上げたこの暖簾は自らだけのものではなく、会社に集う皆の暮らしがかかっているという責任感。当初はこの業界の慣習を含め、霧の中を手探りで進むような日々だったと話す。

空き家の悩みを解決。ご本人や家族の不安に寄り添う

2023年には新たな業務展開として、空き家管理の会社を設立。所有者に代わって家屋の点検を定期的に行うことで、管理不全による様々なリスクを未然に防ぎ、物件の資産価値を維持している。さらに空き家の片付けや整理の相談にも向き合う中で、現在は生前・遺品整理を専門事業として取り組み、ご家族の身体的・精神的負担の軽減に努めている。サービス開始の背景にあったのは、事業のさらなる成長と地域貢献。この事業には社内副業制度としての側面もあるため、従業員の所得向上やスキルアップを実現する場としても活用されている。また、「社会的に意義のあるこの仕事に誇りを持ち、従業員には明るく前向きに仕事に取り組んで欲しい」という思いから、SNSでの発信を通じて業務内容や企業の雰囲気の「見える化」に挑戦。親しみやすい日常を伝え、顧客や求職者に関心を持ってもらう目的はもちろん、自分自身の仕事が誰かに届いているという実感を従業員には感じて欲しいと原氏は語った。環境を守る役目と向き合いながら時代のニーズを読み、これからも次なる扉を開いていく。

1／下水道が整備されていない家庭にとって不可欠な浄化槽。専門知識と経験を活かし、丁寧な清掃を行う
2／人々の暮らしに寄り添い、地域を支えるスタッフ
3／2026年4月に創業60年を迎える
4／思い出の品や貴重品を一つひとつ確認しながら、遺品整理士が丁寧に仕分けを行う作業現場

伝統をまとう日常着を里山から 近年は道の駅の運営にも挑む

代表取締役 **野村 彰**氏

衣服の製造販売や道の駅の運営など、
幅広い事業を展開し、地域の魅力を発信する

中津・下毛同友会

婦人服製造販売業

有限会社 野村

［所］中津市山国町中摩3596-1　［電］0979-62-3126　［休］土・日曜、祝日※他、不定休あり

資源豊かな山国町 誇るべき魅力を多くの人へ

一針一針、丁寧に差し縫いをしてさまざまな模様を作り出す「刺し子」や、布を細く裂いて緯(よこ)糸を作り、一段一段織り込んで新たな布に再生する「裂織（さきおり）」など、日本の伝統的な技法を用いて一点ものの衣服を仕立て、上質な日常を提案する「有限会社 野村」。1981年に中津市山国町で産声を上げ、現在もほかにはない自然素材の力強さと温かな表情が、ファッションの世界で新しい価値を生み出している。その拠点となるのは、奇岩・怪石も多く、渓谷をはじめとする自然美が訪れる人を楽しませる中津市山国町だ。

2011年からは、山国川源流の清らかな水と豊かな土壌で育てた山国米、自家製麹を使用したどぶろくや甘酒の製造もスタート。砂糖や着色料、保存料を使わない優しい味わいが、ふるさと納税の返礼品としても愛されている。そして2019年には「道の駅 やまくに」の指定管理者に名乗りを上げ、約6年が経過した現在も施設のあり方を模索していると語る、代表取締役の野村 彰氏。地域ににぎわいを生み出し、地方創生を加速するための重要な役割が期待されている。

地域を味わい、楽しむ 笑顔あふれる観光拠点

道の駅の指定管理者となった野村さんが最初に着手したのは、顧客が空間に抱く第一印象を左右し、購買行動に直接影響を与える照明器具だった。築年数が経過した建物に光の軽やかさを加え、商品の魅力を最大限に引き出すディスプレイにもこだわったという。また、経営に携わって間もなくコロナ禍に直面したことから、長年親しまれてきたバイキング形式を、個別に食事を提供する食堂形式へと変更。うどん・そばをはじめとする軽食や、中津名物の唐揚げといったボリューム満点の定食は、現在も県内外のファンから愛されている。

季節ごとの旬の野菜や果物が豊富に並び、旅の目的にもなる産直コーナーでは、出荷者の高齢化に伴い品ぞろえの維持が課題となっている。今後は農産物以外の商品開発やサービスの多角化がさらに必要になると語り、マルシェをはじめとするイベントを通じて顧客満足度の向上を図りながら、新たなコミュニティの形成を狙う。

さらに、時期的な商品の不足や偏りの解消を目指し、道の駅同士の連携も視野に入れる。持続可能な施設運営は、従業員の精神的な安定やモチベーションの向上につながり、長期雇用の実現にも寄与することから、意欲のある働き手がしっかりと力を発揮できる職場づくりも目指していく。

国道212号沿いに佇む「道の駅やまくに」。山小屋風の建物が目印だ

1／生産から加工、販売を一貫して手がける甘酒。道の駅で購入できる
2／衣服の販売先は主に首都圏の百貨店。10年、20年と着続けられる作品を目指す
3／唐揚げと麺がセットになった定食が好評。そばかうどんを選べる

功徳の心で、人生の旅立ちに寄り添う

代表取締役 和気 純子氏

伸哉氏と同じくアパレル業界から葬祭業の道へ。
「地域の方々の役に立てる仕事がしたい」と純子氏

宇佐市同友会

葬祭業
有限会社 功徳社中（くどくしゃちゅう）
［所］宇佐市大字岩崎262-7　［電］0978-37-0049　［休］なし

時代とともに変化する地域の葬儀に向き合う

仏教用語で「善い行い」の意味を持つ「功徳（くどく）」を理念に掲げ、総合葬祭業を展開する。現会長である和気伸哉氏の父が創業し、ガソリンスタンドやレンタルビデオの店経営から始まり、昭和60年に葬祭業をスタートさせ、今年で41年目を迎える。当時、宇佐地域では自宅や公民館などで地区の人々と行う葬儀が主流で、経営を支えていたのは会場に飾る花輪や造花の受注であった。だが、時代の流れとともに葬儀のスタイルが自宅葬から斎場葬へと移行すると、花輪などの需要が減少。この転換期に、東京の大手アパレルメーカーで会社員をしていた和気さんは地元へ戻り、家業へ入る。

当初、父からは「24時間365日休みもなく、あらゆる死に向き合わなければならないこの仕事をやる覚悟があるのか」と反対されたこともあったそうだが、「迷いはなかった」と、継承を決意。事業を軌道にのせるべく営業活動に奔走する多忙な日々を送り、徐々に地域の人々からの信頼を築き上げた。

そして現在、社長を務めるのは和気さんの奥様である和気純子氏。東京出身の純子さんは、東京時代に伸哉さんと同じ職場で出会い、結婚。宇佐へと帰郷してからは伸哉さんが社長業を行っていたが、2014年に伸哉さんが地元の市議会議員選挙へ出馬するのを機に、純子さんが社長のバトンを受け取った。「先代や夫が築いてきた家業を背負う責任の重さは今も感じるが、一番の理解者である夫にアドバイスをもらいながら、地域の方々をお見送りする大切な仕事として、懸命に歩んでいきたい」と語る。

ペット火葬や葬祭用品の製造販売など、新事業に挑戦

同社は時代の変化にも柔軟に対応する。コロナ禍以降、家族葬が定着する中、新たな事業戦略の1つとして令和3年に、「ペット火葬業」を開始。高まるニーズを背景に、着実に実績を伸ばしている。さらに令和5年には、葬祭用品の製造・卸販売事業も始めた。灯籠・盛籠・造花など仏事にまつわる製品を、葬儀社の目線に立ち自社で製造から販売まで一貫して行い、九州各地の葬儀社を中心とした取引先をもつ。この「第3の柱」となる新事業は、和気さんご夫妻の息子さんらも参入し展開。「取引先の困りごとや課題を解決できる事業として、力を注いでいきたい」と意欲を込める。

「葬儀社」としての営みは「葬祭インフラを支える会社」へと進化し、地域になくてはならない存在として未来を見据え、人の想いをつなぐ役割を果たし続ける。

スクリーン祭壇を起用するなど「故人らしさ」を大切にした斎場づくりを行う

1／葬儀や初盆用などさまざまな仏事アイテムを自社で製造・販売。地域のニーズに寄り添う　2／「ケンカしたことないんですよ」と和気ご夫妻。人生、仕事のベストパートナーとして歩み続ける　3／平成11年に開設された、国道10号線沿いにある「友善社 宇佐中央メモリアルホール」

従業員ファーストを掲げ 地域のインフラを支える

代表取締役 **佐藤 壮志**氏

「社内環境や制度を大きく変えたことで、業務効率化や生産性の向上が実現できた」と佐藤氏

大野同友会

測量業・建設コンサルタント

株式会社 河野測量設計

［所］豊後大野市緒方町馬場336 ［電］0974-42-2881 ［休］土・日曜、祝日

土木の土台を担い支える 測量・設計の仕事

県や自治体から受託した公共工事の測量事業と、道路や河川などの社会インフラにおける建設コンサル業を展開する「河野測量設計」。今年で創業43年目を迎える同社の代表取締役を務める佐藤壮志氏は、創設者である会長のもとで20年にわたり設計業務を中心に研鑽を積み、令和3年に社長に就任した、いわば生え抜きのリーダーだ。

「目に見えない部分を支える地味な仕事だが、測量や設計がなければ土木事業は前に進まない。社会基盤を支えるやりがいと重責を自覚し、業務に携わることが重要」と、事業への責任感を強調する。

かつては測量業が売上の多くを占めていたが、近年は設計・建設コンサルタント業の割合が逆転。高度経済成長期に造られたトンネルや橋梁の老朽化を背景に、既存インフラの点検・補修・維持管理業務が拡大している。

働きがいと業務効率化を 追求したさまざまな改革

社長就任から5年。佐藤さんが就任直後から力を注ぎ続けているのが、職場環境の整備と新制度の導入だ。豊後大野市外に住む従業員の通勤負担を軽減し、効率よく働ける環境を提供しようと、大分市内にサテライトオフィスを設立。さらに令和7年4月には本社を同町内へ移転・新築するなど、オフィス環境のハード面を刷新した。

また、パソコンやスマートフォンから操作可能な「行動予定アプリ」や「勤怠管理システム」を導入し、会議を含めた完全ペーパーレス化も実現。加えて、従業員の資格取得支援として資格手当を充実させたほか、資格試験合格者にはインセンティブ休暇を設けるなど、モチベーション向上につながる施策を次々と取り入れている。

こうした“働く人想い”の環境や仕組みづくりの効果もあり、現在は新人からベテランまで、20代～70代と幅広い年齢層の従業員が在籍。特に女性従業員は、ここ数年で全体の約3割近くに達し、うち3名は女性技術者として現場を支えている。令和7年には「女性活躍応援県おおいた認証企業」にも認定された。

これらの改革の根底にあるのは、佐藤さんが抱き続ける「従業員ファースト」の信念だ。社員時代に培った経験や知識、改善に対する想いを活かした取り組みが実を結び、業務全体の効率化にもつながっている。

「従業員が働きがいを感じられることを第一に。競争が厳しい業界の中でも、今後は安定的な受注ができる環境づくりを目指したい」。地域と人を想う着実な歩みは、これからも続いていく。

新オフィスの一角には、従業員にゆっくりくつろいでもらおうと、カフェのような休憩スペースを設けた

1／明るくモダンな雰囲気の応接室
2／ペーパーレス化を実現したことでオフィス内がより快適になった
3／旧事務所からもほど近い場所へ移転し、2025年に完成した新社屋

家族３世代で宇目の山と自然を守り受け継ぐ

代表取締役 安藤 雅章氏

「山が保たれてこそ自分たちの仕事がある。義父が長年守ってきた宇目の自然に対する想いも受け継ぎたい」と安藤氏

佐伯地区同友会

林業

株式会社 甲斐林業

［所］佐伯市宇目小野市2766-1　［電］090-2763-5630　［休］日曜、第2・4土曜

山の達人が切り拓いてきた林業への情熱を次代へ

町の面積の9割以上を山林が占める佐伯市・宇目。神々しさ漂う深い森に包まれたこの地域で40年以上、林業を通じて、ひたむきに自然と向き合う「甲斐林業」。

創業者で現会長の甲斐孝義氏は、40代で林業と運送業を開始。85歳となった今も、現役として山に入る凄腕の林業者である。長年培った経験と勘は、木を見るだけでおおよその樹齢や状態が分かるという。「この仕事しか芸がなかったんよ」と甲斐さんは謙遜するが、「木を伐り、森を未来に残したい」という想いと信念こそが、同社の土台となっている。

そして現在、事業の中心を担うのは、代表取締役社長の安藤雅章氏。甲斐さんの娘婿にあたる安藤さんは、約2年前までガス会社に勤めるサラリーマンだったが、60歳で定年を迎えたのを機に、林業の道へと転身。林業の知識は全くなく、重機にも触れたことがないところからのスタートだったが、会長や先輩社員の背中を見てゼロから現場で学んできた。「危険も伴う仕事なので怖さは今もあるが、それ以上に楽しい」と日々、現場での作業に励む。

創業者の想いをつなぐため若いチカラも加わり進化する

同社の主な仕事は、山林所有者と交渉し立木を買い取り伐採して、森林組合などへ出荷すること。扱うのはスギやヒノキで、住宅用材として使われている。甲斐さんが林業を始めた頃は、木の計測や山の境界線の確認は目視、木の伐採もノコギリを使い手作業で行うなど、計り知れない手間暇を要する作業であったという。近年は「林業DX」が進み、デジタル化や機械化が浸透してきたが、急斜面や異常気象など過酷な環境での作業は、決して楽とはいえない。そんな中、創業時から大切に続けているのは「丁寧な仕事をすること」。単に木を伐って終わりではなく一つひとつの仕事に手を抜かず、植林しやすいきれいな状態にすることも忘れない。

甲斐さんから始まった林業は安藤さんに続き、さらに現在、安藤さんの息子である大智さんも加わった。大智さんは、パソコン関連の仕事に就いていたが自らの意思で会社を辞め、由布市にある「おおいた林業アカデミー」で勉強を積み、祖父・父とともに事業を支えている。

今後について、社長の安藤さんは「自然の循環を守りながら、これからも"甲斐林業なら安心して山をまかせられる"と言われる存在であり続けたい」と話す。地域の山づくりは次の世代へと静かに、そして確かに引き継がれていく。

3世代で事業をつなぐ。「家族が林業を受け継いでくれてうれしいし、頼もしい」と甲斐氏

1／安全を最優先に1本1本、丁寧に伐採していく。体力・気力・判断力が必要な仕事だ　2／大智さんの若いチカラも加わり、事業のさらなる進化が楽しみだ　3／事務所を新築・移転した

鉄輪の湯治文化と地熱の恵みで「憧れの日常」を愉しむ

代表取締役 **安波 治子**氏

「地熱のパワーで心身をメンテナンスしてほしい」と安波氏。
鉄輪の温泉文化を伝え、次世代へつなぐ活動にも意欲的に取り組む

別府・日出同友会

ホテル・旅館業
株式会社 一也百（はなやもも）
［所］別府市鉄輪上1組　［電］0977-66-3251

明治創業の老舗旅館は鉄輪の文化と魅力発信の場に

脈々と湯治の文化が受け継がれる別府鉄輪。その温泉街で明治32年に創業した「旧冨士屋旅館」は、鉄輪で「1部屋1組」の旅館スタイルを築いた先駆け的存在として、多くの観光客や湯治客をもてなしてきた。のちに旅館は老朽化もあり、平成8年に旅館の暖簾を下ろし、解体することに。しかし、鉄輪の歴史と風景を見守ってきた建物への愛着、そして古民家再生の第一人者である建築家・降幡廣信氏との出会いをきっかけに、取り壊しを中止し、再生の道を選択。平成13年には登録有形文化財に登録され、その3年後には、コンサートなどの催しに利用できるホールとギャラリーを備えた「冨士屋 一也百 ホール&ギャラリー」として再始動した。現在は、セレクトショップやカフェも併設している。

鉄輪の過去と未来をつなぐ新たな湯治宿をオープン

代表取締役の安波治子氏は、「明治時代から続く旧旅館の価値と、鉄輪の食や温泉、暮らしにもとづいた湯治文化を、滞在型の宿で体感してほしい」と、30年ぶりとなる宿泊業の再開を決意。令和7年7月、「冨士屋ホテル」を開業した。

「126年続く旧旅館を修復・再生したように今回の宿も、古くなったら"スクラップ&ビルド"するような建物ではなく、温泉地にある木造建築の魅力を活かしながら、可能な限り長く持続できるものにしたい」。そんな想いから、宿の建築には大分県で唯一となる「CLT工法」を採用。国産木材の特性を活かし耐震性や耐熱性、強度に優れた建築方法によって、「木造3階建ての宿」が完成した。

館内には「地獄蒸しキッチン」が設けられ、宿泊客は思い思いに食材を持ち込み、地獄蒸しを体験できる。客同士が語らいながら地獄蒸しを楽しむ光景は、鉄輪ならではの食の風景だ。また、館内の給湯や床暖房には温泉の地熱を活用し、壁には自然素材の「ホタテ漆喰」を施すなど、鉄輪のサステナブルな温泉文化を五感で満喫できる工夫が随所に散りばめられている。

歩みを始めた宿の運営について、「単に泊まる場所としてだけではなく、鉄輪の暮らしや温泉文化、人とのつながりを感じ取れる拠点にしたい」と安波氏。さらに「ストレスの多い現代人こそ、地熱のチカラで心身をチューニングしてほしい。そのために、お客様の日常の延長線上につながる場でありたい」と語る。鉄輪の未来を見据えながら、これからも独自の「湯治」のカタチを提案し続ける。

「冨士屋ホテル」の客室。開放的で心地よい空間には、快適な眠りを追求した寝具が使用されている

1／「旧冨士屋旅館」は、別府市で唯一残る明治期の旅館建築
2／ホテル1階の「地獄蒸しキッチン」は、利用客同士のコミュニケーションの場にもなっている
3／屋上階では、湯けむりたなびく別府の街を望みながら、思い思いの時間を過ごせる

家業を軸にパンやカフェ事業で地域に幸せを届けたい

代表取締役 亀井 英和氏

「謙虚な姿勢で周囲に感謝し、カッコよくありたい」
と語る亀井氏。持ち前のユーモアと明るさで事業を展開する

大野同友会

パン販売業
株式会社 Laughking Company（ラッフィンカンパニー）
［所］臼杵市野津町柚野木2-2576-1
［休］【SUMOMO BAKERY臼杵店】なし　【latte】月曜、土・日曜、祝日　【乳屋本舗】日曜

父の働く背中と地域への想いが、新たな事業の原点

「20代前半の頃は、家業を継ぐつもりはなかったんです」と語るのは、亀井英和氏。福岡の印刷会社で、製版や写真の加工などの仕事に携わっていた亀井さんにとって、大きな転機となったのは、野津町で牛乳販売店を営んでいた先代である父の存在だった。

「父がお客さんと顔を合わせ、楽しそうに仕事をしている姿を見て、自分も携わってみたいと思ったんです」。そんな気持ちにかられ地元に戻り、父の事業に関わるようになったという。

その後、2011年に父から正式に事業を承継。20年以上続く牛乳販売業は「乳屋本舗」の名で運営し、野津町や豊後大野市など約600件への牛乳配達を行っている。さらに新事業として、2022年2月には、焼きたてパンを豊富にそろえる「SUMOMO BAKERY（スモモベーカリー）」臼杵店をオープン。亀井さんが運営する臼杵店は、大分県内に複数ある店舗のうち、路面店としては第1号店となる。

「100種類、価格は基本140円～、コーヒー無料」という店のコンセプトが話題を呼び、今やパン好きにはおなじみの人気店だ。

パン事業を始めたきっかけは、ベースであった牛乳販売業を営む中で、「牛乳と一緒にパンも売ってもらえないか」というお客様の声に応えたいという想いからだった。臼杵店のオープンに続き、「生まれ育った野津に恩返しがしたい」という気持ちが膨らみ、2023年には地元でカフェ＆ベーカリー「latte（ラテ）」を開店。

牛乳店が作る「ラテ」をはじめ、コーヒーなどのドリンクや、「SUMOMO」の厨房で作るラテ専用のパンを販売している。営業日の火曜～金曜には、主婦やサラリーマン、高齢者まで幅広い世代が次々と訪れ、ホッとできる憩いの場としても親しまれている。

「ハッピー」を原動力に、日々チャレンジを続ける

家業の牛乳販売業に始まり、ベーカリー、カフェと事業を展開する亀井さんが掲げる理念は「ハッピーのお届け」だ。

「家族やスタッフ、お客様が幸せであるためには、まず自分自身がハッピーでなければならない。これからも、ワクワクする気持ちを大切にしていきたい」と話す。

また、「スタッフが自主的で前向きに仕事に取り組んでくれているからこそ、事業が回っている。早朝から頑張ってくれているみんなには、本当に頭が下がる」と、共に働くスタッフへの感謝を、優しいまなざしで語る。

来年には新店舗オープンも予定しているという。地域とスタッフへの想いを胸に、次なる挑戦もすでに進行中で、今後の飛躍がますます楽しみだ。

臼杵市の店舗「100PremiumBakery SUMOMO 大分臼杵店」。約100種類ものパンが並ぶ

野津町にあるベーカリー＆カフェ「latte（ラテ）」。店内でのイートインも可能

1／「乳屋本舗」の屋号ロゴを掲げ、お客様のもとへ商品を届ける。
2／高齢化が進む地域で、牛乳の宅配を通して顔の見える温かな交流も大切にしている。

「第14回健康寿命をのばそう！ アワード」にて厚生労働大臣優秀賞を受賞しました。

令和7年11月26日東京都千代田区日経ホールにて厚生労働省およびスポーツ庁主催「第14回　健康寿命をのばそう！アワード」の表彰式が開催され、当組合が県内企業初となる厚生労働大臣優秀賞（生活習慣病予防分野）を受賞しました。

授賞理由として、県の登録制度である「健康寿命日本一おうえん企業」第1号事業者として、「地方創生は県民の健康から！」をスローガンに、大分県内すべての地方公共団体、医学部を設置している大分大学や公的な医療・保健団体と連携し、大分県民の健康診査の受診率向上や運動習慣の動機付けなどの支援を行ったことが評価されました。

本受賞に関しましては、大分県の健康寿命延伸を統括する、大分県の佐藤樹一郎知事と国立大学法人大分大学の北野正剛学長に報告をしました。

大分県　佐藤知事に報告

国立大学法人大分大学　北野学長に報告

授賞式

各同友会にて同友会総会・講演会開催

組合員の皆様と、より親密なお付き合いをすすめていくためのけんしん同友会。

平成15年の発足以来、13地区1300名の同友会会員の皆様とともに、総会、後援会、研修、セミナー、スポーツ大会などの催事を通じて異業種の会員皆様の交流の場となっています。

今年度も各地の同友会で総会が開催され、同時に開催される講演会には、地方公共団体の長、経済界、スポーツ関係者、宗教家、大分を愛する外国の方まで多彩な講師の方々が登壇。それぞれのご専門による興味深い講演をいただきました。ここでは今年度、講師を務めていただきました皆様のご紹介と後援会の演題をお知らせいたします。

大分中央ブロック同友会

令和7年9月16日開催
ホテル日航大分
オアシスタワー

株式会社Interbeing
代表取締役／
僧侶（産業僧）
松本 紹圭氏

［演題］
Interbeing ～働く人のウェルビーイングとこれからの企業経営

大分南部ブロック

令和7年10月10日開催
ホテル日航大分
オアシスタワー

つるみ観光株式会社
あったまる宿 ホテル白菊
代表取締役社長
西田 陽一氏

［演題］
**100年企業、その先へ
～心を一つに、ともに笑顔に～**

大分東部ブロック同友会

令和7年11月12日開催
ホテル日航大分
オアシスタワー

日本銀行 大分支店
支店長
安德 久仁理氏

［演題］
**大分も頑張りたいよね、
といういくつかのお話**

中津下毛同友会

令和7年10月6日開催
ヴィラルーチェ

大分県知事
佐藤 樹一郎氏

［演題］
選ばれる大分の実現に向けて

豊後高田市同友会

令和7年10月15日開催
ホテル清照

大分県北部振興局
局長
柴北 友美氏

［演題］
**豊後高田市の“強み”と
北部振興局の取組について**

宇佐市同友会

令和7年8月22日開催
宇佐ホテルリバーサイド

宇佐市長
後藤 竜也氏

［演題］
施政方針について

久大同友会

令和7年10月23日開催
湯の岳庵
（湯布院亀の井別荘庭内）

The Japan
Travel Company
株式会社 取締役会長
**クリスティ・
ポール氏**

［演題］
観光と地方創生

大野同友会

令和7年12月11日開催
ホテルますの井

豊後大野市長
川野 文敏氏

［演題］
**『持続可能な豊後大野市づくり』
を目指して**

竹田同友会

令和7年9月10日開催
ホテル岩城屋

日本銀行 大分支店
支店長
安德 久仁理氏

［演題］
**動き始めた物価と賃金
～当面の課題を考える～**

佐伯地区同友会

令和7年9月12日開催
ホテル金水苑

一般社団法人
佐伯市ベースボール
イノベーション協会
代表理事
高司 健司氏

［演題］
野球の力で地域活性化を

国東同友会

令和7年9月18日開催
アストくにさき
マルチホール

大分キヤノン株式会社
代表取締役社長
増子 律夫氏

［演題］
現在（いま）こそ企業連携を！！

COMPANY

よつば電工 株式会社

電気工事業

急成長を遂げる電気工事のスペシャリスト

飲食店やテナントなど、鉄骨系建物における電気設備工事を得意とする「よつば電工株式会社」。代表の宇都宮徹氏を含む4名という少数精鋭の体制ながら、「誠実な仕事を重ね、利益を着実に積み上げる」という信念のもと、外部協力会社と連携しながら、確かな技術力と品質で一つひとつの案件に丁寧に向き合っている。その姿勢が評価され、着実に信頼と実績を積み重ねてきた。2022年設立という若い会社でありながら、売上は順調に伸長。宇都宮氏は、もともと福祉業界での経験を持つ異色の経歴の持ち主だ。「業界が変わっても、人と人とのつながりの大切さは変わらない」という思いを軸に、持ち前の決断力と判断力を発揮。社員とともにチーム一丸となって、事業の成長に邁進している。

「起業時よりともに一緒に頑張ってくれている社員に感謝。これからも堅実に事業を伸ばしていきたい」と宇都宮氏

[所] 大分市法勝台1-1-3 明友モール203
[電] 097-507-7338 [休] 日曜、祝日

株式会社 スマート トータル サービス

車両整備業

遊び心をくすぐるキャンピングカーが人気

創業11年目を迎える自動車のスペシャリスト集団。新車・中古車の販売をはじめ、整備、板金、車検などを主軸としながら、コアな客層から熱い支持を集めているのが、約6年前から展開する「キャンピングカー事業」だ。軽自動車からハイエースクラスまでを対象に、ユーザーのイメージや要望に合わせてアウトドア仕様へと架装。おしゃれで細部にまでこだわったデザイン性の高いキャンピングカーは、まるで家のようにくつろげる空間を生み出し、ファンの心をつかんでいる。今後は防災に特化した車両の製造・販売や、安全・快適に車中泊ができるRVパークの開設などの展望も描く。

オリジナルのキャンピングカー。県内で唯一の「(一社)日本RV協会」加盟店でもあり、信頼と実績も強みだ

[所] 大分市六坊北町7-37
[電] 097-507-0298
[休] 日曜、祝日、隔週土曜

ホームページ　インスタグラム

株式会社ミサオスタジオ

写真業

写真を通じて、家族の絆と想いをつなぐ

お宮参りや七五三、入学・卒業、成人式、還暦など人生のさまざまな節目となる瞬間を、長年にわたりカタチに残してきた老舗写真館「ミサオスタジオ」。撮影者として30年以上のキャリアをもつ代表取締役の御竿文人氏は、お客様の想いや求めるシーンに寄り添いながら、その人らしい自然な表情や魅力を引き出す撮影を大切にしている。「ご夫婦から家族へ、さらに三世代で記念日に訪れてくださる方も多い。笑顔が増えていく場面に立ち会えることが、何よりうれしい」と語る御竿さん。写真を通じて人と人、そして家族のストーリーをつなぎ続けている。

広々とした写真スタジオを完備。家族の宝物となる一枚を丁寧に、楽しみながら撮影してくれる

[所] 別府市北的ヶ浜5-37
[電] 0977-21-1616
[休] 火曜、第1・3水曜

インスタグラム

GUIDE けんしん同友会企業紹介

有限会社 五昭　ハウスクリーニング

女性のチカラで地域の家の困りごとを解決

目を引くピンク色の社用車が目印。空き家管理やリノベーション事業なども手がけ、地域の住環境の課題を支える

不動産の入退去清掃や、高齢者・共働き世帯などの個人宅を中心に、ハウスクリーニング業を展開している。「女性の忍耐力や信念の強さ、そして行動力を活かせたら」と、スタッフは全員女性。代表取締役の五所昭一氏は、女性の活躍に価値を見出し、イキイキと働ける環境や体制づくりを大切にしている。確かな技術とサービスは口コミで広がり、現在は約1,000件の管理物件を手がけるまでに成長。また、空き家となった実家の管理や片付けなどで帰省した県外在住者が、宿泊先として利用できる「ゲストハウス運営」事業も好調だ。「家」にまつわる困りごとを、ワンストップでサポートしている。

［所］中津市東浜700-1
［電］0979-31-6029
［休］日曜、祝日

ホームページ

有限会社 吉田石材店　石工事業

多角的な終活サポートで地域をつなぐ老舗石材店

4代続く老舗石材店として「人生100年時代の今、誰に何を残すかを提案し続けたい」と語る吉田氏

墓の製造・販売を基軸に数年前から積極的に取り組んでいるのが、墓じまいや仏壇、家じまい、遺品整理などの「終活サポート」。さらに、遠方に住む遺族に代わり役所の手続きや自治区への挨拶、お骨の取り出しなどを一括して代行するサービスも好評を得ている。介護福祉士、終活カウンセラー、遺品整理士の資格を持つ代表取締役の吉田実香氏が寄り添いながら丁寧に対応し、供養からその先まで責任をもってフォローする。QRコードを使った供養や、今後は自宅に置ける小さな可動式のお墓「宅墓（たくぼ）」の仕組みも計画中。時代に合わせ、先祖を想う心を未来へと伝えていく。

［所］宇佐市大字岩保新田410-2
［電］0978-38-5633
［休］土・日曜、祝日

ホームページ　インスタグラム

株式会社 小田原工務店　建設業

大工工務店が提案する等身大の暮らしを叶える家

大分市別保にある住宅展示場のモデルハウス。ミニマムながら、快適で住み心地の良さを実感できる造りが魅力だ

幼い頃から大工である父の背中を見て育ったという、代表取締役の小田原哲也氏。この道一筋30年の職人として、「小さくてもいいから持ち家がほしい」という想いに寄り添う住まいづくりを行っている。使い勝手の良い間取りや設備、地元工務店ならではの提案力、長年の経験で培った確かな技術力で手がける家は、口コミで評判を広げてきた。2025年11月には、県内の工務店5社で立ち上げた住宅展示場に、初となるモデルハウスを出展。「一大決心だったが、多くの人に弊社がつくる家を知ってもらいたい」と、こだわりの住まいの魅力発信と周知にも挑戦している。

［所］豊後大野市大野町小倉木1183
［電］0974-27-5255
［休］日曜

ホームページ　インスタグラム

TomoPal
大分県信用組合
「けんしん同友会」会報誌 トモパル

「けんしん 大分県の企業の仕事と事業の説明会」開催

次世代を担う若者に「大分県の仕事」を学ぶ機会を提供！
大分県立大分商業高等学校と大分県信用組合との連携事業

大分県高等学校教育研究会商業部会と大分県信用組合は、それぞれの専門的な知見・ノウハウを活かし会員校の生徒への教育支援やインターンシップの活用により県内中小企業との交流を行い、地域への人材供給など、大分県の持続可能社会実現に向け協力するため令和7年5月9日に包括連携協定を締結しました。

上記協定に基づき、令和7年12月8日（月）同会の会員である大分県立大分商業高等学校において、全1年生約240名に対して、「けんしん　大分県の企業の仕事と事業の説明会」を開催し、同校の生徒に向けて、大分県での魅力ある仕事や職場について理解を深めるための機会を提供しました。

吉野理事長挨拶

各企業のブースでの授業の様子

第34回 けんしん美術展 同友会賞 受賞作品の紹介

令和7年10月8日より17日まで第34回けんしん美術展を開催しました。

けんしん同友会のご協賛をいただき、平成29年に若手・新人の発掘を目指して創設した「けんしん美術展同友会賞」に、今年も若く新しい才能が加わりました。

けんしん美術展 同友会賞は毎年、40歳未満でこれまでけんしん美術展に入賞歴のない方の中から3名を選出しています。今回までに27名の方が受賞しています。（本年度の受賞者を含む）

「断片」
玉ノ井 ちほ 様

「かたちづくる」
吉田 はるか 様

「独立」
原田 真花 様

審査員
大分県美術協会 会長　**池部 俊之** 氏
大分合同新聞社 編集局生活文化部 部長　**元木 隆介** 氏
公益財団法人 二階堂美術館 副館長　**加藤 康彦** 氏

■VOL54 2026年3月30日発行 ■発行 大分県信用組合営業統括部 ■所在地 大分市中島西2丁目4番1号
TEL 097・534・8200 ■企画・編集 株式会社 アドコンセプト

大分県信用組合
https://www.oita-kenshin.co.jp

大分を元気にプロジェクト

本号におきましては、各地域の同友会の皆さまに取材のご協力を頂き誠にありがとうございました。これからも順次各地域の同友会への取材を企画しております。なお、紙面構成の都合により至らぬ点もあろうかと存じますが、何卒ご了承くださいますようお願い申し上げます。（会報誌編集事務局）